



オバマケア廃止に躍起のトランプ氏だが……（ホワイトハウス）

「苛立ち」と「試金石」

トランプ米大統領の表情が冴えな
い。昨年の大統領選に絡み、ロシア
政府が干渉したとされる疑惑を捜

査する「ロシagate」では、トランプ氏本人の関与が焦点となっている
が、この捜査を指揮する特別検察官
ロバート・モラー氏の姿勢は厳しく、
報道も追及の手を緩めない。

公約に掲げた、医療保険制度改革
(オバマケア) の廃止を目指す代替
法案は採決のメドが立たず、政権内
では失脚したと見られていた側近のバ
ノン氏が復活し、権力争いが激しく
なりそうだ。トランプ氏の憂鬱は続
く。

「自らが罷免したコニー元FBI
長官と」非常に仲のよい友達で厄介
だ」――。

トランプ氏はこのほど放送された米

FOXニュースで、大統領選のロシア関
与疑惑に関し、捜査を統括するモラ
ー氏のことをそんな風に揶揄した。

さらに、同氏が昨年の大統領選で、
トランプ氏と戦って敗れたヒラリー・
クリントン元国務長官の支持者を雇
うだろう。

トランプ米大統領の憂鬱

「オバマケア」廃止と ロシア・ゲート捜査の混迷

国際ジャーナリスト
泉 洋海

ついているとして「ばかげている」など
と述べ、公平性に疑義があるかのよ
うな発言も。
罷免するかとの問には「見ていか
ねばならない」と述べた。

一方、上院共和党はオバマケアの廃
止を目指し、代替法案の素案を発
表した。オバマケア廃止は、選挙戦
でトランプ氏が掲げた目玉公約の一
つだ。

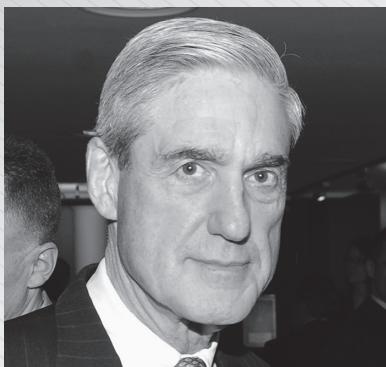
モラー氏はコニー氏の前任のFBI
長官で、コニー氏は副長官としてモ
ラー氏を支えた経緯がある。公平な
硬骨漢と評価の高いモラー氏による
追及が、トランプ氏を追い詰める結
果となるとの見立てもある。

この発言を受け、ホワイトハウス報
道官は「トランプ大統領には特別検
査官を解任する権限があるが、そ
うするつもりはない」と火消しに追
われた。

トランプ氏は連日ロシア疑
惑で追及を強める報道各社に対し、
会見の回数や映像の放映、録音の制
限を始めた。これもトランプ氏のい
速これを直す大統領令を出す。

6月には「オバマケアは死んだ」と
ツイッターでつぶやき、上院が提出

公約でオバマケア廃止を訴えたトランプ氏は、大統領就任後の1月、早
速これを直す大統領令を出す。



日バート・モラー特別検察官(FBI)



返り咲いたバノン氏

下院に提案したが、党内では意見が分かれた。国による補助金給付を嫌う保守派と、オバマケアを廃止した際に発生すると思われる、大量の無保険者を懸念する健保派とが対立。党幹部は意見を調整できず、採決にすらこぎ着けることができなかつた。

5月によろやく下院で修正案を通過させたが、票数は賛成217、反対213とギリギリ。共和党からは

した医療保険制度改革法の代替法案を支持した。

20人もの造反者を出した。定数100の上院で共和党の議席は52。多くの造反者がいれば、法案の通過は極めて厳しくなる。テッド・クルーズ上院議員は「現時点では賛成できない。

親族組の劣勢とバノン氏復活

代替法案を成立させないと、税制改革などの議論が始まらない。まさに、代替法案はトランプ政権の今後を占う試金石と言える。

イク・ペンス副大統領ら共和党人脈
バノン氏ら反エスタブリッシュメントで
トランプ氏の思想を形づくる人達、
の3つの流れがあり、互いに競ってい
るという。

国による補助金給付を嫌う保守派と、オバマケアを廃止した際に発生すると思われる、大量の無保険者を懸念する健保派とが対立。党幹部は意見を調整できず、採決にすらこぎ着けることができなかつた。

て重要な公約であり悲願だ。これが通らなければ、トランプ氏の支持者の離反を招きかねないだけでなく批判が及ぶ。来年の中間選挙への影響も小さくない。

ハノン氏と言えば過激な発言で知られる。そして、選挙中はトランプ氏の「米国はシリアから撤退すべき」「既得権益層から権限を取り戻す」といった主張のバックグラウンドとなつた。

中東からの撤退は、中東と利害関係があるロシアとの関係改善をも狙うバノン氏の主張に沿う。

を持ちかけたのではないかとの疑いがかかるており、議会に召喚される可能性もある。

5月にようやく下院で修正案を通過させたが、票数は賛成217、反対213とギリギリ。共和党からは

さらに、トランプ氏はオバマケア廢止で削減した財源を減税などに当て
る見込みだ。

中東からの撤退は、中東と利害関係があるロシアとの関係改善をも狙う、バノン氏の主張に沿う。

親族組のパワー低下に伴い浮揚して来たのがバノン氏。トランプ氏はロシア疑惑で大手マスコミから攻撃を受

しかし、グローバリストであるトランプ氏の愛娘イヴァンカ氏やその夫タラ・シューナー氏は、シリア攻撃の必要性を主張。トランプ氏はこれを受け入れ、シリア攻撃を実行した。

これに反対したバノン氏は親族との戦闘に敗れ、左遷された状態になってしまった。

ける中、メディア対策などにバノン氏の力を借りたいようで、新設する「司令室」なるものへの参加が決まっているという。政権への完全復活を果たしたと言えよう。

政権内で刻々と変化するパワーバランス。「影の大統領」などと形容される強引なバノン氏の復活が、ト

トランプ氏を支える権力は、イギリスのアングロサクソン族の親族と、アーチボルド・マクドナルド卿の一族である。

したがって、政権内で刻々と変化するパワーバランス。「影の大統領」などと形容される強引なバノン氏の復活が、トランプ政権にプラスとなるのか、マイナスとなるのかは見通せない。